

電子処方箋モデル事業－広島県安佐地域を訪問



参議院議員・薬剤師 神谷政幸

令和5年8月29日、電子処方箋のモデル事業を実施されている広島県安佐地域を訪問しました。本事業は安佐地域のほか、山形県酒田地域、福島県須賀川地域、千葉県旭地域で実施されており、事業実施期間は令和4年10月末から1年間です。重複投薬等のチェックをはじめとした電子処方箋の運用面での検証を行うとともに、電子処方箋を活用した先進的な取組や課題、優良事例を収集することにより、電子処方箋の更なる活用方策についてとりまとめる予定です。

広島県薬剤師会の豊見雅文会長にご同行いただき、まず初めに広島市立北部医療センター安佐市民病院様を訪問しました。薬剤部長のご案内で、実際に運用されている各部門の状況を視察させていただきました。その後、医療法人長久堂野村病院様となかしま薬局様を訪問し、現状を視察させていただきました。

安佐地域のモデル事業の第一の特徴は、参加する医療機関と薬局の数が多くにあります。また、電子処方箋発行までの流れにも特徴がありました。患者さんに対して、まず保険薬局から電子処方箋に関する説明を行い、同意された場合は「電子処方箋申込書」に患者さんが署名等を記載します。これを患者さんが医療機関に持参し、電子処方箋を発行することで、電子処方箋に対応できない薬局に患者さんが処方箋を持って行くことを避けることができます。

今回、電子処方箋の運用プロセスや課題等について現状を伺い、様々な問題点を確認することが出来ました。調剤記録や重複投薬等チェック機能はもちろん、医療機関と薬局の情報交換がスムーズになることで、医療安全と薬物療法の質向上に繋がることを実感しました。今回の視察にご尽力いただきました関係者の皆様に御礼を申し上げます。



広島市立北部医療センター安佐市民病院にて